
WG07　10月定例会議
【方針発表直前】
※ご意見はチャットでください！
TDBC

本日の確認事項／方針発表のストーリー

10月29日の方針発表で、WG07として何を伝えるかを整理します

① 社会課題

- 人手不足
- 高齢化
- 危険作業
- 災害対応
- 働き方改革

② 手段

遠隔施工 ＋ 自動化 ＋ デジタル技術



社会課題を解決するための手段として位置付ける

③ 2026まで

e建機チャレンジ等による実証・普及・技術検証



競技 / 体験 / 情報発信

④ 2027から

実施工・人材育成・評価基準・企業連携へ



安全性 / 生産性 / 運営の改善 / 参加者拡大

⑤ 2030に向けて

遠隔と自動化を組み合わせた施工を、一般的な選択想へ



安全 / 生産性 / 多様な人材 / 地域連携

WG07は、e建機チャレンジ中心の実証・普及活動から、遠隔施工と自動化の社会実装を推進する活動へ発展する

今日ご確認いただきたいこと

1. WG07の方向性
2. 2026の成果の整理
3. 2027の基本構想
4. 年間活動の重点

“技術を競う”から“技術を社会で使える仕組みにする”へ

WG07としての整理案

一般にも伝わる言葉で、活動の範囲と関係性を整理する





遠隔施工

人が機械のそばにいなくても、遠隔操作や自動化などを使って施工する考え方

WG07では「遠隔施工」を全体を表す言葉として使用

遠隔操作

離れた場所にいる人が建設機械を操作する

自動化

人の操作の一部または全部をシステムが担う



超遠隔

数十～数百kmなど、非常に離れた場所から行う遠隔操作

遠隔操作の一形態

無人化

危険な場所から人を離して施工する状態

安全を実現する形

省人化

少ない人数で施工できること

生産性向上の効果

デジタル技術

通信・映像・データ・制御技術が全体を支える

共通基盤

伝え方のポイント

1. 一般向けには「遠隔施工」を中心に説明
2. その中に「遠隔操作」と「自動化」を位置付ける
3. 目的は「無人化」と「省人化」の実現

これらの取り組みにより、社会のさまざまな課題の解決につながります

安全性向上

危険な作業から人を守る

生産性向上

効率的で安定した施工を実現

多様な働き方

場所にとらわれない働き方を可能に

災害対応

災害時の迅速な復旧・支援

1.WG07 新年度テーマについて

案①：遠隔施工を「実証」から「共創による社会実装」へ

建設・通信・ICT・教育・行政がつながり、遠隔と自動化で新しい施工のかたちをつくる

案②：人と場所の制約を越える、新しい施工のかたちへ

遠隔・自動化・デジタル技術の共創で、安全・生産性・多様な働き方を実現する

案③：遠隔・自動化施工を、特別な技術から当たり前の選択肢へ

企業・地域・人をつなぐ共創で、持続可能な建設と災害対応の仕組みをつくる

『遠隔施工』をWG07全体を包含する言葉として使って良いか
※WG07でいう遠隔施工には、遠隔操作だけでなく自動化も含める

複合案：遠隔施工を「実証」から「共創による社会実装」へ

遠隔・自動化・デジタル技術で、安全で持続可能な新しい施工のかたちをつくる

なぜ遠隔施工なのか？

建設業が直面する社会課題は、運輸業界にも共通する課題です



人手不足

オペレーター不足
高齢化
担い手の減少

危険作業

災害現場・急傾斜
土砂崩れなど
立ち入りが困難

場所の制約

機械がある場所まで
人が行かなければ
ならない

遠隔施工



『人を機械のある場所へ運ぶ』



『操作を必要な場所へ届ける』へ

遠隔施工は、建設だけでなく、**働き方・安全・災害対応・地域連携**を変える可能性があります。

3.WG07 メンバー（順不同）

リーダー　　：植村建設株式会社　山本 雅
スーパーバイザー：伊藤忠商事株式会社　池田 靖
サブリーダー：ARAV株式会社　白久 レイエス樹

事業者会員　８社(＋5団体)

旭建設株式会社
植村建設株式会社
株式会社カネモト
東珠株式会社
西松建設株式会社
野原グループ株式会社
株式会社フジタ
丸磯建設株式会社

(団体)
特定非営利活動法人 国際教育eスポーツ連盟ネットワーク日本本部
一般社団法人災害対策支援者協会
一般社団法人災害対策トレーニングセンター支援会
千葉房総技能センター
東海大学

サポート会員　１２社

株式会社EARTHBRAIN
アクティア株式会社
ARAV株式会社
株式会社eek
伊藤忠商事株式会社
ヴォイニッチ株式会社
NSW株式会社
株式会社コナミデジタルエンタテインメント
田中電気株式会社
株式会社パトライト
日立建機株式会社
ウイングアーク１ｓｔ株式会社

WG07 メンバー紹介

ー企業では実現できない課題を、異業種の組み合わせで解決する「共創の体制」ー

リーダー　　：植村建設株式会社　山本 雅
スーパーバイザー：伊藤忠商事株式会社　池田 靖
サブリーダー　：ARAV株式会社　白久 レイエス樹

事業者会員
建設会社、商社など
現場実装の主体

サポート会員
技術・機材・通信・教育・防災・エンタメなど
多様な専門性で支援

TDBC

WG07 共創の体制

1 建設会社・現場実装

施工現場の知見とノウハウで、実証から社会実装を推進



旭建設株式会社
植村建設株式会社
株式会社カネモト
東珠株式会社
西松建設株式会社
野原グループ株式会社
株式会社フジタ
丸磯建設株式会社

2 建機・施工機械

建設機械・施工環境の提供、技術支援



日立建機株式会社

3 商社・事業連携

事業推進・産業連携、ネットワーク構築



伊藤忠商事株式会社

4 ICT・遠隔技術・データ

遠隔操作・通信インフラ・ソフトウェア・可視化技術の開発・提供



株式会社EARTHBRAIN
アクティア株式会社
ARAV株式会社
ヴォイニッチ株式会社
NSW株式会社
ウイングアーク１ｓｔ株式会社
株式会社パトライト

5 教育・研究・人材育成

次世代人材の育成・技術検証・研究連携



千葉房総技能センター
東海大学
特定非営利活動法人 国際教育
eスポーツ連盟ネットワーク日本本部
株式会社コナミデジタルエンタテインメント
(コナミeスポーツ学院)

6 防災・支援団体

防災・訓練・現場支援、災害対応での活用推進



一般社団法人 災害対策支援者協会

一般社団法人 災害対策
トレーニングセンター支援会

7 eスポーツ・普及支援

eスポーツを通じた普及啓発・コンサルティング・人材マッチング



株式会社eek
株式会社コナミデジタル
エンタテインメント
(コナミeスポーツ学院)

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®

e建機チャレンジ2026 開催報告

遠隔施工の社会実装に向けた実証・体験・発信の2日間



開催概要

開催目的
遠隔施工の可能性を広く伝え、
社会実装に向けた実証・人材育成・
業界連携を進める

開催日時
2026年10月2日・3日

後援
国土交通省／CEMA／JCMA

1分20秒動画

来場者

1日目	2日目
約150名	約70名

YouTube視聴

ライブ後を含む視聴回数

1日目	2日目
1,150回以上	1,200回以上

1 1日目 セミナー・情報発信DAY



- 国交省基調講演
- 事例発表
- 技術紹介
- パネルディスカッション

2 2日目 競技DAY



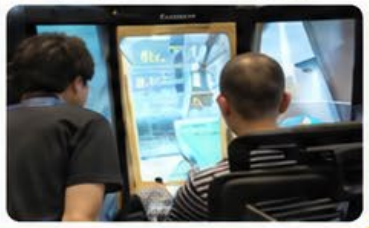
- 競技

3 両日実施

- 遠隔操作体験



- シミュレーター体験



© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®

e建機チャレンジ2026で分かったこと・得られた成果

社会実装に使える知見が蓄積されたことを整理して報告する

1 生産性ポイントの導入

従来の操作スピード中心の評価から進化し、安全性と生産性を総合的に評価できた。

スコアボード

最終ポイント ＝ 安全 生産性（pt/日） − ペナルティ減算 − 過不足減算

順位	チーム	合計重量 t	合計タイム	最終ポイント
1	学生重機1	12.6	7:04	155,400
2	学生重機2	15.2	7:46	148,500

安全 > 品質 > 速度

最終ポイント＝
生産性−ペナルティ−過不足減算

2 安全面での知見

安全教習の実施方法や安全衛生管理計画書の作成など、普及につながる知見を得た。

競技ルール　安全 > 品質 > 速度

予選 5チーム → 決勝 上位2チーム → 表彰 5賞

①やること	②積込量（2台合計）	③採点
2人1組・2台同時 掘削・旋回・積込 × 5杯 旗から10分で終了 ペイロード未計測の場合はブームを上げ下げして再計測	基準 11.2 t 適正 10.1〜12.3 t 範囲外は減点 積みすぎも減点（過積載） 比重は設置後のと決定	最終ポイント＝ 生産性（多く・速く） − ペナルティ − 過不足（範囲外）

3 運営・技術の安定性向上

競技運営の精度や技術的な安定性が向上し、実施体制の成熟が進んだ。



社会実装に使える知見が蓄積された

e建機チャレンジ2026は、競技会にとどまらず、遠隔施工の普及・実装に向けた知見を蓄積する場となった。

4 新しい人材参加の可能性

障がい者や建設業未経験者など、多様な人材が参加できる可能性が見えてきた。



5 改善点の把握

参加者アンケートなどから、情報共有や運営方法に関する改善課題も確認された。



次年度への活用 | 2027競技の高度化 | 年間活動への反映 | 社会実装に向けた検証の継続

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®

TDBC | WG07 TDBC方針発表

e建機チャレンジから、遠隔施工の社会実装へ

年間活動で得た成果を検証・発信する場として、e建機チャレンジを位置付け直す



これまで

競技・体験による実証と普及







① 実施工に近い競技へ



現場に近い条件で検証

② 多様な参加者



未経験者・主婦・障がいのある方

③ シミュレーター・複数拠点



遠隔操作の可能性を拡大

e建機チャレンジ

年間活動の成果発表の場



④ 実施工事例の共有



年間の成果を発信

⑤ 座談会・パネル



課題と可能性を議論

⑥ 連携の強化

行政　建設会社　建機メーカー　技術提供企業

これから

年間活動を通じた社会実装の推進







実証から社会実装へ、活動を発展

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®

e建機チャレンジ2027 基本構想 検討案



構想イメージ（最終決定ではありません）

これまでの成果をさらに発展させ、遠隔施工の社会実装に向けた新たなステージへ

① 実施工に近づける

現場条件に近い競技へ



② 安全＋生産性＋操作技術を評価

安全性・生産性・操作技術を総合評価



③ 遠隔＋自動化

人の遠隔操作と自動化技術を組み合わせる



④ 複数拠点

複数会場・複数建機での展開を検討



e建機チャレンジ2027 基本構想

⑤ 障がい者・未経験者への参加拡大

多様な人材が挑戦できる場へ



⑥ 建機メーカーの参加拡大

メーカー連携で機種・参加体制を拡充



多様な参加による実証と連携で、遠隔施工の社会実装を加速

※開催時期・会場・競技内容・参加形式等は今後の検討により決定

主な検討の方向性

- 実施工との接続
- 参加者層の拡大
- 連携体制の強化

2027年度 WG07重点活動

—— 年間活動と e建機チャレンジ2027 の関係

① 社会実装



- 一般工事
- 災害対応
- 実施工事例

② 人材育成



- 遠隔オペレーター
- 安全教習
- DMTC等との連携

③ 技術・評価



- 生産性ポイント
- 通信
- 自動化
- 遠隔・自動の切替

e建機チャレンジ2027

年間活動の成果を
検証・発信する場



④ 共創・情報発信



- 行政・メーカー・建設会社・技術企業との連携
- 動画
- 座談会
- e建機チャレンジ

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®

目指す未来

TDBC WG07
Toward a Smarter Construction Future

TDBC



2030

遠隔・自動化施工を『特別な技術』から『普通の施工の選択肢』へ

- 少ない人数でも施工できる
- 危険な場所に人が入らなくてよい
- 場所を問わず働ける
- 災害時に迅速に対応できる
- 多様な人材が建設に参加できる

技術を競うのではなく、技術を社会で使える仕組みにする。

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC®